

第2次菊池市総合計画（素案）に関する意見募集の結果及び市の考え方について

第2次菊池市総合計画(素案)について、市民の皆さまからの意見を募集したところ、ご意見をお寄せいただきありがとうございました。
寄せられましたご意見の概要とこれに対する市の考え方について、平成27年1月29日開催の第6回菊池市総合計画策定審議会において承認を頂きましたので、次のとおりお示しします。

1.募集期間:平成26年11月26日(水)～平成26年12月25日(木)

2.ご意見の件数等:13件(3名・1団体)

3.ご意見の取扱い

- | | |
|----------------------------|----|
| ①反映……ご意見を踏まえ素案を修正したもの | 4件 |
| ②補足……ご意見に対して市の考え方で補足説明するもの | 7件 |
| ③参考……今後の取組の参考とさせていただくもの | 6件 |

※1つのご意見に対し複数の取扱いがあるので、受付件数と一致しません

4.意見の概要と市の考え方

No.	意見の概要	市の考え方	取扱い
1	土地利用の方針の中で、定住促進ゾーンを旧市町村の中心地に位置づけているが、それだけでなく、現在の各小学校を中心としたコンパクトな定住促進ゾーンを設定したほうが、小学校の存続につながり、地域の活性化につながるのではないかと。	土地利用の方針では、旧市町村の中心地を定住促進ゾーンをとしており、基本的なイメージを示したものです。実際、上下水道などのインフラ整備が済んでいるところであれば、地域の活性化に向けた定住促進策などを展開してまいります。	②
2	施策6「生きる力を育む学校教育の充実」の「現状と課題」のなかで、菊池市の子ども達の学力が他市や県内でどうあるのか。その学力について、市としてはどのように考え、どうあるべきだと考えているのかを示すべきではないかと。	成果指標欄に数値目標を示しているところですが、市としては全国標準学力検査53.0を目指しております。具体的な取組みについては、第2期菊池市教育振興計画に基づき実施してまいります。	②
3	市長マニフェストで、「日本一の給食宣言」を掲げられている。関係する施策において「課題解決に向けた取組み」で、具体的な取組み内容を文章にしたほうがよくないかと。	各学校の食育活動については、施策6の生きる力を育む学校教育の充実に記載しているとおりです。既に全学校が取り組んでおり、また具体的な内容については、現在策定中の市食育推進計画及び地産地消推進計画に基づき取り組んでまいります。 子どもの頃から正しい食習慣を身につける食育の推進については、施策17で取組み内容を加筆修正いたします。 上記の具体的な取組みについては、引き続き実施計画に定め、事業を展開してまいります。	①②

4	菊池市にとって、儲かる農業と商工業の発展は欠くことのない重要事項である。農業関係の施策は具体的で希望のある内容であるが、商工業の内容は非常に貧弱であり力を入れた具体性のある取り組み内容が望まれる。また企業の誘致については、決死の覚悟で取り組むべき。例えば、専門家をヘッドハンティングして、プロジェクトチームにより実現するなど。また、成果指標に掲げる新規雇用者数の目標は15,000人を目指すこと。	施策4の商工業の活性化については、ご指摘のとおり現状と課題、課題解決に向けた取り組みの欄に、加筆修正いたします。 施策5の優良企業の誘致につきましては、現在企業誘致室での誘致活動に加え、大阪や東京に職員を派遣し、関西関東での情報収集や展示会を行うなど積極的な誘致活動を行っているところです。 ご意見の新規雇用者数の目標15,000人は過大な目標となりますので、前期基本計画の期間内で達成できる現実的な数値としております。	①②
5	住みやすさ日本一のまちへ。 施策23から施策27の移住定住の促進から都市基盤の整備について。「定住自立圏構想」で「中心市宣言」をした菊池市が「大都市圏への人口流出を食い止める事」を目的に「都市機能の強化」「定住環境の整備」の具体的な施策を求められます。移住定住の現状と課題は明確なのに、課題解決の取り組みとなると、具体性に欠け、現状ではいかに定住環境の整備が難しいかが分かります。合併から10年、新年度に「形成方針」と「共生5ヵ年ビジョン」を策定するには、「各地域が個性を生かし役割分担しながら市全体の活性化に取り組む」新しい発想の市民との「協働」チームを結成しなければなりません。それが「タスクフォース・機動部隊」、市民「文化村」構想、「わいふ夢美術館」です。	定住自立圏の形成に係る基本方針及び中心地域と近隣地域が相互に役割を分担して取り組む事項等については、今後具体的に定め事業を展開してまいります。	③
6	平成17年度からの第1次総合計画と平成27年度からの第2次総合計画は、平成33年度までの長きに渡り、菊池市のまちづくりの理念「豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち」そのコンセプトは変わりません。この理念のもと、菊池市の都市づくりで、これから特に求められるのは「国際化」「国際交流」そして「国際観光化」です。そこで、この理念を外国語、国際共通語の英語で「Garden City Kikuchi」と表現し、世界に発信します。Garden Cityと呼ばれる都市は、欧米各国に沢山ありますが、その中で菊池市にしかない特別なブランド。それは“Millennium”です。欧米では「千年王国」とも云われますが、菊池市には「菊池一族千年の歴史」と「菊池さくら千年プロジェクト」もあります。その思いも込めて世界に発信する事を提案します。「田園文化都市」菊池。「The “Millennium” Garden City Kikuchi」です。	観光資源を磨きあげ、国際化に向けた取り組みを諸外国に情報発信したいと考えております。ご意見は菊池を盛り上げていくための内容ですので、実施計画に定める事業を展開するうえで、各分野の参考とさせていただきますと思います。	③

7	菊池市のまちづくりを具体化するために、統括的な市民との「協働」組織が必要です。「協働」事業には、資金は勿論、市職員、NPOボランティア等が「それぞれが等しく」市民が参加しやすい環境づくりが重要です。しかし、新年度から国の地方交付金が一括化されるなど、資金面を市に頼る事はできません。その為には総務省の「地域経済循環創造交付金」等の「地方創生資金」により、最初の事業の立ち上げの3年間を、第2次総合計画の前期基本計画に合わせ、同時に指導する人材についても、総務省の「外部専門家制度」「地域おこし企業人」等の外部専門家と経験、実績のある地域のNPO組織のスタッフによる「特別チーム」を作らなくてはなりません。市の予算に頼らない、全く新しい発想の、言わば「菊池創生」の為の「タスクフォース・機動部隊」です。これは既に菊池市民「文化村」構想として、市に企画が提出されています。あとは、具体化、実行あるのみです。	施策10に記載のとおり、市民と協働のまちづくりを行ううえでは、市民が参加しやすい環境づくりが重要であり、市民力を生かしたまちづくりを推進していきたいと考えております。その中で地域おこし協力隊の活用や外部専門家を準備しているところです。具体的な事業については、実施計画の中で取り組むこととし、ご提案の企画については各分野で参考とさせていただきたいと思います。	③
8	市民アンケートと課題について。 市政運営に関するアンケートは、平成25年10月のサンプルで無作為抽出5000人中の1600人程度、つまり5万市民の3%に過ぎないので、まず明記すべき。しかも、30項目に分けてわざわざパーセンテージにしなくても、この程度の数字なら実数で十分。1月に開催された第1次総合計画外部評価委員会でも「ここから5%の誤差は常識、内部評価の伸びも5%ならそれも誤差の範囲、適切なデータの数値とは言えない」と厳しい評価。結局、また「内部評価」の成果指標を数字でごまかすことになるのだから。ついでに、この外部評価委員会の「総合計画」への意見を見ると、「意見を反映するため、担当部局も出席して欲しい(担当者がいない?)」「成果指標の数字だけで成果が見えないものは、市が努力して取り組んでも、数値として逆に成果が出ていない事になる、検証が必要」「アンケート形式ではなく、様々な市民の声を指標で示したほうが良い、それを3年毎に見直し、市民と一緒に話し合いをする計画作りを」など。これは、まだ素案。市ができればお手伝いをします。市民との協働組織「文化村」で作成可能。	ご指摘のとおり、平成25年10月実施のアンケートについて、抽出件数や回収率等について加筆いたします。 第1次総合計画の目標設定では、施策の性質上数値化が難しく整理が不十分なところがありましたので、第2次総合計画の指標については全項目を成果指標としております。評価につきましては、施策30に記載の通り達成状況が市民に実感しやすいものとなるよう取り組んでまいります。	①②

9	癒しの里づくりに向けた土地利用の方針。 基本構想は良いとして、ゾーンとは既に地域を特定する意味を持つのが常識。この場合はグループが適当。イラストにする必要なし。定住促進も賑わい交流も「ゾーン」が浮いているだけで、一見解りそうで解りにくい。これを「絵空事」という。この総合計画の最後まで、結局どこがどこなのかさっぱりわからないから。「定住自立圏構想」の「定住促進」「都市基盤の整備」もオプション(選択肢)であり、「共生ビジョン懇談会」に繋ぐくらいの計画を最初からここに落とし込むべき。都市の生き残りをかける時代がすぐそこまで、やってきている。他に先駆けて、スピード感を持って「菊池創生」を。	土地利用の方針のゾーニングについては、基本的なイメージを示したものです。今後、定住自立圏構想の形成に係る目的や基本方針等、また中心地域と近隣地域が相互に役割分担を行い、連携して取り組む事項を策定していくことになります。具体的な取り組みについては、実施計画の中で検討してまいります。	②
10	施策3観光戦略の構築について。 廃校を利用した「菊池ふるさと水源交流館」を拠点にしたグリーンツーリズムの推進は、第1次総合計画で平成26年度目標値が3,000人だったが、宿泊客の固定化等で横ばい状態。今回も平成25年度1,700人から平成29年度の目標値1800人は寂しい数字。地域の魅力を広げるために、迫水小から竜門湖周辺、菊池溪谷を結ぶ地域資源の活用、整備計画と「市民の桜の里づくり」等も「文化村」構想、「わいふの夢美術館」設立でより総合的な計画になる。	グリーンツーリズム推進の成果指標である宿泊者数については、前期基本計画の期間内で実現できる現状に沿った目標設定としています。 ご提案の地域の魅力を広げる取り組みは、施策3で記載してますとおり、あらゆる地域資源を活用し、地域一体となった取り組みを展開しているところです。ご存知のとおり菊池市には数多くの素晴らしい資源がありますので、具体的な活用方法や地域連携の取り組みについては、実施計画の中で検討し展開してまいります。	③
11	第6節 開かれた市政と行財政の効率化。 「市民協働を進めるうえで、多くの市民の声を市政に反映する手法や仕組みづくりを具体化し、職員の意識改革に努める。また、市民や行政などの責務と役割、参加と協働を柱とする住民自治の理念と基本原則をルール化した仕組みづくりに取り組む」のはいいが、それにしても「市長と語る会」の参加者が平成25年度272人、平成29年度目標値が300人、4年で28人しか増えないのか。	平成25年度から市民の声を行政に反映していくことを目的に「市長と語る会」を始めました。市民誰もが参加しやすく、きめ細かな意見交換の場にしたいと考えておりますので、成果指標の変更を行います。引き続き仕組みづくりや開催方法等について検討を重ねてまいります。	①

12	文化財の保護、活用及び地域づくりについて。 バルティウス、出田節子、大塚耕二ほか、菊池市の現代美術、芸術作品も調査をして、総合的に「菊池遺産」として保護、管理しなければなりません。これは、第1次総合計画の第2回外部評価委員会で、市担当部はこうした芸術の分野は「整理が出来ていない」と答えています。市民へ展示する準備も始めなくてはなりません。 こうした現状と課題について、ここでは「市民主体による地域の実情に合った地域づくり団体を支援し、公益的な事業を提案し、市との協働事業として実施することで市民力を生かしたまちづくりを推進する」としています。その具体的な動きとしては、市民「文化村」構想の一環、旧迫水小学校の遊休施設を再利用する、菊池「わいふの夢美術館」計画が既に企画として市に提出されています。運営母体の市民「文化村」事務局の活動が開始できるよう、1日も早く旧迫水小学校の使用を承認し、企画を具体化しなければなりません。	美術・芸術分野の展示については、現在の夢美術館の指定管理者である菊池温泉観光旅館協同組合や観光関連団体と連携を図りながら、アイデアを出し合いより多くの方に作品をご覧いただけるよう充実していきたいと考えております。 また、ご提案の企画は菊池を盛り上げていくための内容ですので、実施計画の各分野で参考とさせていただきたいと思います。	②③
13	韓国の2都市と中国との友好都市関係は、政情不安から交流が不安定で、国際交流が停滞しています。スタンスをヨーロッパへ、スイスのロシニエール村に向けるべきです。高校生による猫の作品交流もあり、そしてロシニエール会を通じて、バルティウス財団のあるロシニエール村との友好関係の公式締結を。これは2年後の夏、モントレー・ジャズ・フェスティバルの開催に合わせて、現地で記者発表。市当局のキャパシティが一杯なら、これこそANA総研「企業人まち起こし隊」派遣スタッフと菊池市民「文化村」事務局のアウトソーシング・コラボ「協働」事業で。経費は別荘。	ご提案の取り組みは菊池を盛り上げていくための内容ですので、実施計画の各分野で参考とさせていただきたいと思います。	③